

2025 区民と議会の交流会 総務委員会

市町村交流でつながる 全国としながわ



はじめに

ご参加に際して

- お飲み物はご自由にお取り下さい
- お手洗いなど出入りはご自由にして頂いて構いません
ワークショップ中は、グループの方にご配慮いただけますと幸いです
- ぜひ皆さまのご意見を様々にお伺いさせていただきます

スケジュール

	進行
1	はじめに
2	委員自己紹介
3	総務委員会とは
4	品川区の市町村交流事業の紹介
5	ワークショップ
6	参加者発表 & 感想
7	おわりに

総務委員会 参加委員紹介



委員長
石田 秀男



副委員長
塚本 よしひろ



澤田 えみこ



山本 やすゆき



石田 ちひろ

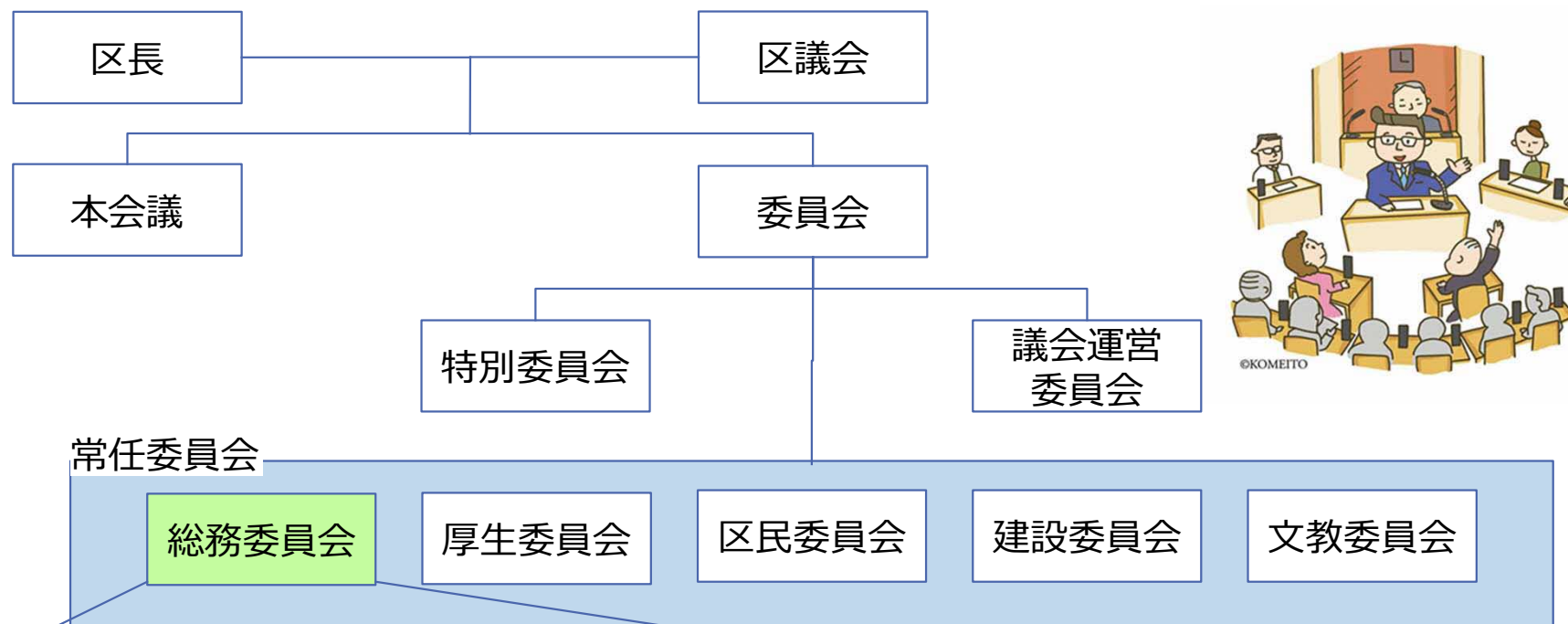


松本 ときひろ



西本 たか子

総務委員会とは



総務委員会管轄

■ 経営企画部

・企画課 ・財政課 ・施設整備課 ・デジタル推進課 ・経理課 ・税務課

■ 区長室

・総務課 ・戦略広報課 ・人権・ジェンダー平等推進課 ・人事課 ・新庁舎整備課

■ 会計管理室

■ 選挙管理委員会事務局

■ 監査委員事務局

品川区の 市町村交流事業の紹介

市町村交流の種類

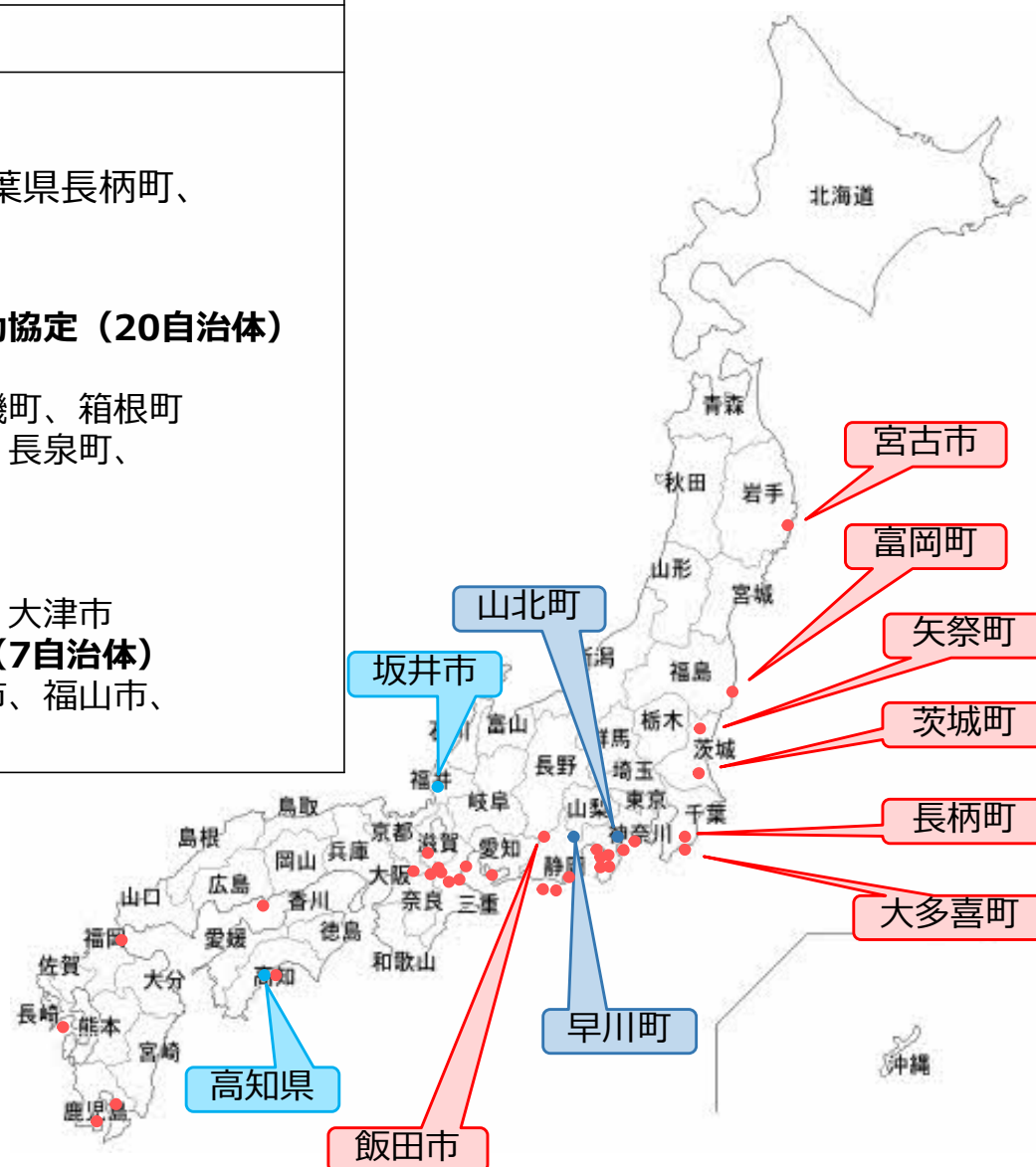
● 包括的な協定	産業、観光、文化、スポーツなど様々な分野で包括的に連携・協力することを目的とする。
● 交流協定	相互に行き来するなどの交流を目的とする。
● 災害時相互 援助協定	災害発生時における各種応急復旧活動に関する人的・物的支援を目的とする。

市町村交流について

品川区と協定を締結する他自治体

令和7年8月1日現在

● 包括的な協定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県 ※明治150周年 ・ 坂井市 ※特別区全国連携プロジェクト
● 交流協定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山北町、早川町
● 災害時相互援助協定	<p><個別自治体との協定> 岩手県宮古市、福島県富岡町、 福島県矢祭町、茨城県茨城町、千葉県長柄町、 千葉県大多喜町、長野県飯田市</p> <p><複数自治体と協定締結></p> <p>◆東海道五十三次市区町災害時相互援助協定（20自治体） 東京都：大田区 神奈川県：小田原市、横浜市、大磯町、箱根町 静岡県：函南町、三島市、清水町、長泉町、 藤枝市、掛川市、袋井市 愛知県：豊明市 三重県：桑名市、鈴鹿市、亀山市 滋賀県：甲賀市、湖南市、草津市、大津市</p> <p>◆龍馬の絆で結ぶ災害時相互応援協定（7自治体） 鹿児島市、霧島市、長崎市、下関市、福山市、 京都市、高知市</p>



(出典：品川区議会資料)



- 高知県・高知県木材協会との木材利用に関する協定
エコルとごし:高知県産のスギや高知漆喰



- しながわ水族館「新・足摺海洋館SATOUMI」
グランドオープン記念水槽展示

- 区内イベントへの参加
にしこやまつり、エコルフェス、宿場まつりなど



- 品川図書館「高知県ブックフェア」

- 坂本龍馬記念館学芸員による品川区立学校での出前授業

- カーボンオフセット
ヒカリの水辺プロジェクト（橋梁ライトアップ）に使用する電力に係るCO2排出量対策として実施
大井保育園新築工事期間で排出されるCO2排出量の全量をオフセット



- ハタチの龍馬など各自治体のキャラクターを活用した
観光PR動画

(出典：品川区HP)

令和元年に品川区と福井県坂井市は、特別区全国連携プロジェクトを契機に包括的な協定を締結しました。

特別区全国連携プロジェクトとは、特別区（東京23区）は、全国の各地域と産業、観光、文化、スポーツなど様々な分野での新たな連携を模索し、東京を含めた各地域の経済の活性化、まちの元気につながるような取組のことを言います。

<連携事業>

- 区内イベントへの参加
- 区立学校への坂井市産米の提供
- 鮫洲入江広場のゆり
- 交流ツアー

<その他>

- 戸越銀座商店街へのアンテナショップ出店



品川区学校給食用 田んぼ



鮫洲入江広場のゆり

山梨県早川町

(人口818人、面積369.96km²)

品川区と早川町との繋がり

ふるさと交流協定

品川区は、昭和61年8月に「水と緑の市町村との交流事業」基本構想を策定
区民に水と緑に象徴される自然環境の豊かな市町村との交流事業を通じて、健全で
うおいのある区民生活の実現を図るため関東周辺の81市町村から選考

平成2年4月19日に「ふるさと交流協定書」を調印

交流体験事業

平成7年11月30日に早川町で「農村休暇邑整備構想」が策定され、
早川町が持つ生産、交流、自然体験を生かした交流事業の提案を受け、
品川区では田植えや稲刈り、川遊び、そば打ち体験など年間9回程の交流事業を
実施、交流バスツアー、区民の宿泊施設利用助成で交流を促進

マウントしながわ里山再生事業

平成19年5月28日に早川町京ヶ島地区にある広さ4万平方メートル、標高482m
の山を早川町より無償提供
その山を「マウントしながわ」と名付け、品川区民主導による調査、利用計画を作成し
里山づくりを研究

災害時相互援助協定

平成7年3月20日に首都直下型大震災対策の一環として、品川区と早川町で応急
物資の供給、被災者の一時受入れ等の相互援助協定を締結

平成26年2月に山梨県は観測開始以来の大雪に見舞われ、早川町の山間の多くの
集落は孤立状態となりました。品川区では緊急救援物資の配送や見舞金を届けました。

(出典：品川区HP)



山菜まつり
(青稜中学校・
高等学校吹奏楽部演奏)



早川町物産展



田植え体験



川遊び



マウントしながわ里山再生事業

神奈川県山北町

(人口9,175人、面積224.61km²)

品川区と山北町との繋がり

ふるさと交流協定

昭和63年4月18日に神奈川県山北町と「水と緑のふれあい交流」の協定締結

交流体験事業

品川区から山北町の「洒水の滝まつり」、「丹沢湖まつり」に伝統芸能団体を派遣

山北町からは、品川区で行われる「しながわECOフェスティバル」や

「しながわ夢さんばし」のイベントに物産展を出店

品川区民芸術祭に「チェーンソーアート」を出展

1割引きで利用できる区民の宿泊施設利用助成で交流を促進

ひだまりの里

平成8年に「ひだまりの里」を開園

農作業が体験できる協働農園、貸し農園等で、品川区民の自然とのふれあい体験の促進、オートキャンプ場、テニスコート、クラブハウスの活用

災害相互援助協定

平成7年3月20日、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災の教訓を生かし、首都直下型大震災対策の一環として、品川区と山北町で応急物資の供給、被災者の一時受入れ等の相互援助協定を締結



洒水の滝まつり（八潮太鼓之会）



丹沢湖花火大会（大井権現太鼓の会）



ひだまりの里



協働農園の収穫

岩手県宮古市・福島県富岡町

岩手県宮古市 ≪目黒のさんま祭り（上）、親子体験交流（下）≫



地域に昔ながらの人情と暖かさを取り戻そうと企画したことがきっかけで始まった「さんま祭り」。そのさんまが岩手県宮古産だった縁で 交流が始まり、現在の祭りの形が確立された。それがきっかけで、災害時相互援助協定を結ぶ。



品川区と災害援助協定を結ぶ宮古市を訪れ、震災遺構の見学や震災ボランティアによる語り部体験などを通じて、児童たちの防災意識を啓発することを目的に開催。豊かな自然体験を通じて親子のふれあいや、宮古市の子どもたちとの交流を通じて児童の健全育成を図り、宮古市に復興支援のエールを送ります。

福島県富岡町 ≪しながわ夢さん橋 出店≫



富岡町と品川区は、ニュージーランド・オークランド市とそれぞれ国際友好都市あり、それをきっかけに自治体間の交流が始まり、2005年に災害時相互援助協定を結ぶに至る。

震災の後も、「地域同士のつながりの灯を消してはいけない」という強い思いから富岡町の特産品販売など、交流は継続されている。

＜飯田市の特徴＞

- 信州・南信州に位置する自然豊かな地域
- 農産業・林業、果樹（りんご等）や地域資源を活かした産品
- 将来、リニア中央新幹線による首都圏直結でアクセス良好



＜品川区との交流＞

- 防災協定（相互援助）
 - － 締結日：2024年10月3日
 - － 内容：災害時の物資提供、被災者受け入れ、住宅提供、職員派遣等
- 地域振興・物産展への参加
 - － 品川区主催の物産展で飯田市の特産品を紹介・販売
 - － 都市と地方のつながり強化、区民への地域理解促進



(出典) 飯田市HP、品川区HP、品川区Instagram

帯広市ばんえい競馬振興・沼田町移住支援



大井競馬場のある品川区と馬に着目した自治体間交流

- ・ばんえい競馬の起源は「お祭りばんば」
- ・売上はH24年以降、好調に推移
- ・馬の資料館、とかちむら(地元農畜産物販売)で集客
- ・引退したばん馬が街の振興に活躍
 - 馬車バー
 - ふれあい動物園



宿場まつりを縁として始まった交流を自治体間に

- ・農村型コンパクトエコタウン構想
 - 高齢者が歩いて暮らせる距離は500m
- ・くらしの安心センター
- ・沼田町の指定管理施設ほろしん温泉ほたる館
- ・夜高あんどん祭
 - 年に1度の町最大のイベント

(委員による撮影)